

霜注意報に伴う農作物等の管理対策

平成30年 5月10日

新潟県農林水産部

5月10日12時55分に新潟地方気象台から山沿い地域の市町村に対して霜注意報が発表されました。11日の朝は霜に対する農作物等の管理に十分注意してください。

1 水稲

- (1) 育苗ハウスのサイドビニールを閉め、保温管理する。
- (2) 無加温で出芽中または緑化中の苗は、最低温度が10℃以下、硬化中の苗は8℃以下にならないよう、被覆資材の追加や暖房等による保温対策を実施する。
- (3) 露地プール育苗は、プールを湛水状態にして保温管理する。
- (4) 田植え後の稲は、3～4cmのやや深水の保温的な水管理をする。

2 野菜

- (1) 霜が降りる前に定植を予定している場合は、作業を延期する。
- (2) すいか・メロン等トンネル栽培で、定植直後の場合は、夜間保温のためトンネル内に不織布をべたがけする。
- (3) 露地えだまめは、霜害を防止するためトンネルやべたがけ資材等の被覆資材を活用する。
- (4) 加温ハウスは、加温により適正温度を保つとともに、ハウス内温度を保つため、夕方早めに内張り資材を被覆する。
- (5) 無加温ハウスは、夜間低温時に必要に応じてストーブ等で加温を行う。
- (6) 露地アスパラガスで萌芽直後の若茎が低温障害を受けた場合は、速やかに除去し、株への負担を軽減する。
- (7) 降霜後、霜害の程度が軽く生育の回復が見込める場合、液肥の葉面散布やかん注を行い草勢の回復に努める。

3 果樹

- (1) 専用固形燃料や「せん定枝チップ+灯油」等による燃焼や防霜ファンを稼働させる等の応急対策を講じ、園内の空気対流に努める。
- (2) 展葉期頃までのいちじくの一文字仕立栽培では、多孔質マルチシートやアルミ蒸着シートで樹体を覆う。

- (3) 無加温ハウスで、夜間から早朝にかけて低温が予想される場合は、保温のため午後早めにハウスを閉める。また、必要に応じてストーブ等で加温を行う。

4 花き

- (1) 施設栽培では、温度保持に努めるため、夕方早めに内張り資材を被覆する。
- (2) 無加温ハウスでは、夜間低温時、必要に応じてストーブ等で加温を行う。
- (3) 球根養成栽培では、茎葉が霜害を受けると褐色斑点病等病害の発生が懸念されることから、予防的な防除を行う。

5 きのこ

- (1) 気温の低下が懸念される場合は、品種や生育状況に応じた適切な温度管理に努める。
- (2) 生育状況の把握に努め、異常が認められた場合は、適切に対応する。